０３／０８／３１　　礼拝メッセージ　　近藤修司　牧師

主　　題：希望をもって生きる
聖書箇所：ペテロの手紙第一　３章１３－１７節

　クリスチャンが救われた目的、それは神のすばらしい救いのみわざを伝えるためであるとペテロは繰り返し教えています。また、ペテロはその福音宣教において、ことばとともに私たちの行ないが大切であると教えます。神に正しい態度で生きてゆくことです。ペテロはどこでもいつでも、神のみことばに従って正しく生きなさい、そうすればあなたは「主」のすばらしい証を為すことができると教えてくれました。
　前回学んだ、３：９「悪をもって悪に報いず、侮辱をもって侮辱に報いず、かえって祝福を与えなさい。」は実際には非常にむつかしいことですが、これを可能にしてくださるのは神ご自身です。神は「人にはできないことを成される」お方だからです。“できない私をできる私へ”と変えて行ってくださるのです。だから私たちは、神に信頼しつつ常に神の助けをいただきながら、みことばを実践し、また、罪を告白しつつ、歩み続けることが重要なのです。
　今日の箇所からペテロは、私たちがどのような状況に置かれても、救われた目的である神の救いのみわざを伝え続けて行くための、その秘訣を教えてくれます。

☆ どのような状況にあっても神の救いのみわざを伝え続けてゆくその秘訣とは？

Ⅰ．私たちがしてはならないこと　　１３－１４節
１）祝福を誤解すること　　１３、１４ａ節
　「祝福」とは、自分の願うことがかなえられること、望むことが与えられること、何の問題もない日々であると一般的には定義します。だから、１３節「もし、あなたがたが善に熱心であるなら、だれがあなたがたに害を加えるでしょう。」に同感するのです。「害」とは不当な圧迫を加える、とか虐待する、という意味です。こんなに熱心なのにどうしてこのような害があるのか、苦しみがあるなんて起こりえないこと、熱心でありさえすれば自分の望んでいる祝福をいただくことができると信じているのです。しかし、現実には、問題が起こり、悲しいこと、苦しいことが襲ってきます。
　私たちがみことばに従順であろうとするとき人との摩擦が生じます。人々に理解されず、誤解され、非難さえ受けます。神を愛そうとするほどに友は去って行き孤独に置かれます。「善に熱心な私にどうしてこのような苦しみが起こるのか」と嘆き、このようなことは祝福からはほど遠く、感謝もできないし、喜びもないと思います。しかし、これは私たちのまちがった考えから来ています。神からきた定義ではないのです。これらは神を知らない人が考えることだと気づくことが必要なのです。神を知らない人の知恵が神の知恵を席巻することがあります。テレビやラジオ、またいろいろな講演や書物などを通して、著名人、見識者と言われる人たちの知恵を聞いたり、読んだりするとき、それがどんなにすばらしく感動を与えるものであったとしても、それらをみことばに照らしてみることが必要です。神の知恵よりもこの世の知恵を優先するところに、私たちキリスト者の落とし穴があるのです。
　Ⅰコリント２：６には「しかし私たちは、成人の間で、知恵を語ります。この知恵は、この世の知恵でもなく、この世の過ぎ去って行く支配者たちの知恵でもありません。」とあります。そして、続く７節には「私たちの語るのは、隠された奥義としての神の知恵であって、それは、神が、私たちの栄光のために、世界の始まる前から、あらかじめ定められたものです。」と、どのようにすばらしい知恵であっても神の知恵に優るものはないと言います。神の「知恵」とは、神のメッセージ、教えです。
　神は「善に熱心なキリスト者」に、苦しみのない日々を約束してはおられません。かえって時には、苦しみが訪れることを約束しておられます。１４節の初めに「たとい義のために苦しむことがあるにしても、それは幸いなことです。」と、クリスチャンに苦しみがあることをパウロも認めています。それが私たちに必要だからです。それは、私たちの日々がもっと喜びと感謝と希望に満ち溢れたものとなるために、そして、私たちがもっと神に喜ばれる者となるために必要なことなのです。それによって、私たちはより「キリストを証する」という救われた目的を達成する者となるのです。だから、「害」＝不当な扱い＝も、実は私たちにとって何が必要かを知っておられる唯一のお方からの祝福のプレゼントなのです。

２）状況に流されること　　１４ｂ節

「彼らの脅かしを恐れたり、それによって心を動揺させたりしてはいけません。」とあります。ここで、私たちの心に動きに注目しましょう。
〇恐れを抱きます。ここでは、私たちの信仰のゆえに、外から不当な迫害を受け、脅かされます。そうすると、
〇心が動揺します。私たちの心から平安が消えてしまいます。それは心に恐れが働くことを許すから、恐れが心を支配するからです。たとえば、偶像礼拝をめぐって家族から責められたとき、また、自分のことを嫌う人たちがいると分かったとき、自分の将来に不安を覚えるときなどです。
今朝の新聞に「不安大国日本」と題して、２０歳以上の１万人を対象にしたアンケートの結果が掲載されていました。それによると、日常生活で悩みや不安を感じていると答えた人は６７．２％で、１９５８年以来最高とのこと。その第１位は老後の生活設計５０％、２位は自分の健康４６．３％、３位は今後の収入や資産４１．７％、４位、家族の健康３８．４％です。年齢別では、悩み・不安を感じているのは４０，５０歳代が７割、２０代と６０代、７０歳以上が６割。内閣府は「教育費負担や親の介護が重なる中高年の将来不安が反映されたのでは…」とのことです。
　クリスチャンである私たちは、心に恐れを抱くようなことが起こったとき、神を見上げ、神に委ね、神の最善を期待するなら、どのような問題にも流されることなく、平安・喜びを維持できるのです。しかし、「恐れ」から目を離すことなく、その中で「どうしよう」「何とかしなければ…」と思案しているなら、その人の心から平安は消えるのです。

II．私たちがするべきこと　　１５節
１）キリストがだれであるかを常に思い出す　　１５ａ節
　「キリストを主として」とあります。これは、キリストが「唯一の主権者」であることです。他の何ものにも左右されず、ご自身のみ旨を行なわれるお方です。このことは聖書が証することです。
●このお方の言われたことは必ずそうなる、成就する。
　●このお方はこれから先、永遠の計画をもっておられる。
　●このお方は将来に起こるすべての出来事を知っておられる。
　●このお方は何が最善であるかを知っておられる。
　●このお方の許可なしには何も起こらない。たとい神の敵であるサタンであっても、このお方の許可なくしては何もできない。
　私たちがときに神を見失い、神はどこにいるのか…？と問うようなことがあるのは、それは私たちの側に問題があるのです。だれが主権者であるのかをしっかり覚えることです。神は私のために最善のことを成してくださるという確信に立つことです。
しかし、ここで疑問をもちます。
●それでは人が「罪」を犯すことも神の計画ですか？
●「戦争」が起こることも神の責任ですか？
いいえ！それは人間が神の教えに背いて罪を選択しているのです。神が罪が間違いであることをいくら教えても、人は罪を選択し続けるので、神は彼らのしたいようにさせておられるのです。神はご自分の計画に従ってすべてを成して行かれるお方です。

２）キリストへの忠誠心を思い出す　　１５ａ節
「心の中でキリストを主としてあがめなさい。」とあります。この「あがめる」というのは「キリストを至高の存在として扱うこと」です。私たちが神に全き畏敬の念をもつこと、あらゆるものに勝る忠誠心を示すことです。また、「心の中で」とは心が大切であることを教えます。心が人間の言動を支配するからです。１４節では心が恐れに満たされると動揺が生じることが教えられました。心が常に主に対して畏敬の念に満たされることにより、忠実な歩みが生まれるのです。
　そして、この「あがめなさい」は継続を意味する現在形ではなく、「もうすでに為された確実な行為や出来事」を意味する不定過去という時制なのです。それは、本当のキリスト者ならもうすでにこのような選択を自分の意志ではっきりと行なっているはずだから、というのです。キリストを信じる決心をしたということは、キリストを自分の「主」としたことです。
　あなたのキリストへの忠誠心に問題はないでしょうか？
●キリストへの忠誠心こそがこの地上の日々において、最高の祝福を得る唯一の生き方です。それは神だけがどのようなときにも揺るぐことのない本当の満足、喜びを与えてくださる方だからです。キリスト者なら神がくださる喜びを知っているはずです。神がくださる満足を知っているはずです。また同時に、この方を主として生きることが永遠に価値ある生き方なのです。それはその信仰に対して、主から

すばらしい祝福、ほうびをいただくからです。
●それと異なり、この世がもたらすものは“一時的な満足、喜び”であって、永続するものではありません。そのことも私たちはよく知っているはずです。また、そのような生き方は神の前において祝されることがなく、かえって裁かれるものです。神への不忠実さによって、無駄な時間、日々を過ごしてしまったというような歩みをしないようにしたいものです。そして何よりも、いのちを捨てて罪を赦してくださった主のお役に立てなかった！もっと忠実に生きたならこのお方のすばらしさをこの世に明らかにすることができたのに、それを自分の不忠実さによって台無しにしてしまった！と悔やむことのないようにしたいものです。
私たちは「どうぞ、私を助けてください、忠実に歩んで行きます。約束された平安、喜びを私ください」と神に願うべきです。

この１）２）で教えられた通りの生き方によって生きるとき、もたらされる結果は？
●心の中に希望が与えられます。希望をもって人生を送ることができるのです。私たちのその生き方によって、人々はその希望について関心を持ち、説明を求めるのです。それがすばらしい証の機会を生むことになります。神は何にも勝る希望を私たちキリスト者に与えてくださるのです。希望をもって生きるために、「してはならないこと」をせず、「すべきこと」を行なうことが大切なのです。しっかり主を見上げ、主に忠実に歩む誓いを常に心に思うこ**とです。**